

つるぎさん ほんぐう つるぎ じんじゃ れいたいさい  
劔山本宮劔神社例大祭と

つるぎさん いんべ しゅげんどう  
劔山忌部修験道の歴史





# 《 目 次 》

1. 阿波忌部とは
2. 剣山の由来と平家伝承
3. 安徳天皇と阿波忌部氏
4. 剣山忌部修験道
5. 龍光寺と富士之池本坊
6. 剣山「奥参り」と劔神社本宮例大祭
7. 例大祭への誘い



## 【写真解説】(上から順)

- ・美馬市木屋平川上の「横瀬神社」・同川上の「垢離取川」での水行 ・「剣山本宮宝蔵石神社」への参拝
- ・剣山行場「蟻の塔渡り」・例大祭で天狗を先頭に神輿渡御(平家の馬場) ・「大劔神社」と御塔岩
- ・昔の宝蔵石(劔祠) ・昔の垢離取橋 ・昔の富士之池での盛大な例大祭
- ・昔の劔山修験者と先達

## 1. 阿波忌部とは

・忌部とは、穢れを忌み清めるマツリゴトに従事する集団との意味をもち、古代より大和朝廷の宮廷祭祀や祭具・神殿を造る等の職務を司ってきた名門氏族であった。徳島の忌部は阿波忌部と呼ばれ、天日鷲命を祖神とし、麻や穀(楮)を植え、吉野川流域の粟国(阿波国)を拓いた。麻を植え良く繁茂した肥沃なる地は麻植郡(吉野川市・美馬市木屋平)と名付けられた。近年の研究で、阿波勢力(後の阿波忌部族)は、ヤマト政権の成立に大きな影響を与え、日本各地へと進出し、産業の基盤となる麻や穀を植え、農業・養蚕・織物・製紙などの技術を伝播させたことが分かってきた。その深遠なる歴史を継承する意義をもつのか、阿波忌部氏は、歴代天皇即位の大嘗祭で大嘗官(悠紀殿・主基殿)の神座に神衣として奉られる鹿服と呼ぶ大麻の反物を調進する重責を担ってきた。



※「忌部神社」より鹿服が立出する(令和の大礼)



## 2. 剣山の由来と平家伝承

・徳島のシンボル、標高1955mの霊峰・劔山は、日本百名山の一つに数えられ、西日本第2位の高峰として、一帯が劔山国定公園に指定され、山岳信仰の対象として崇められてきた。標高1700m付近までは、リフトで登ることができ、頂上部に「劔山頂上ヒュッテ」(本館・雲海荘)の宿泊施設がある。クマザサに覆われた頂上からは、徳島市内のみならず、鳥取県の大山、紀伊水道までが一望でき、夜ともなれば360度パノラマで、手に届くような星空と天の川が眺められる。また、劔山には、宮尾登美子さんの小説「天涯の花」で有名なキレンゲキョウマ(天然記念物)をはじめ貴重な高山植物が群生している。



※霊峰・劔山(石立山・太郎山)

・劔山はかつて石立山(太郎笈・太郎山)と呼ばれ、元々は吉野川水系の水源地を司る山神として宝蔵石を磐座に、古代より忌部氏が崇拝してきた神聖なる山であった。それ故、『阿波史』では「忌部神」を祀ると記された。現在は宝蔵石を御神体に「劔山本宮宝蔵石神社」(美馬市木屋平川上)の社殿が置かれ、素盞鳴命と安徳天皇の二神を祭神とする。



※「劔山本宮宝蔵石神社」の社殿

・徳島の平家伝承は、次のようにまとめられる。平安時代末期、元暦2年(1185年)、讃岐屋島の戦いで平家方が劣勢になると、田口左衛門尉成直は、父の田口成良(四国平家の有力家人)と計り、安徳天皇はじめ平国盛(平教盛の第二子・教経)ら平家の人々を逃がした。一行は、讃岐の水主庄へと入り、白鳥より阿波の大山(上板町)を越え、吉野川を渡り、井内谷(三好市井川町)から峻険な寒峰を踏破して東祖谷を平定した。一方、平知経(清盛の四男・平知盛の子)と安徳天皇の一行は、忌部氏を頼って東宮山(旧麻植郡木屋平村)の尾根筋を越え、木屋平の森遠に内裏を設けた。森遠の小屋平氏はその末裔で、「木屋平」の由来は、“小屋の内裏”の「小屋」と平家の「平」を合わせ名付けられたという。その後、国盛が祖谷を平定した由を聞かれ、富士之池(木屋平川上)を仮の行在所とし、平家の再興を祈願して宝蔵石に天皇の御劔(天村雲劔)を奉った。これより以降、劔山及び劔山大権現と呼ぶようになった。その後、一行は東祖谷で過ごされたが、平家再興の夢は叶わず、天皇は東祖谷で幼くして崩御され、「栗枝渡八幡神社」がその火葬場跡とされる。



### 3. 安徳天皇と阿波忌部氏

・安徳天皇は、平安末期の寿永元年（1182年）11月24日に大嘗祭を執り行っている。藤原忠親の『山塊記』には、元暦元年（1184年）11月18日、後鳥羽天皇の大嘗祭を行うにあたり、四国に平家が陣取って往復の交通が途絶えている。阿波から予定通り籠服が調進されるのかと心配する旨の記録がある。平家の壇ノ浦滅亡は、元暦2年（1185年）4月25日とされる。平家再興は、歴代天皇家とゆかり深き関係をもつ阿波忌部氏の庇護を受けることが最上の策と考えたのであろうか。安徳天皇は、当時の剣山系を拠点とする忌部氏や修験者の手解きなどの手助けで逃げ延びたのかもしれない。森遠の「八幡神社」が天日鷲命を祀る神社であること、平家落人の里、那賀町木頭の「蟬谷神社」境内に「忌部神社」が祀られていることなどは、その史実を如実に物語っているといえよう。



※安徳天皇が御剣を奉納した「宝蔵石」

### 4. 剣山忌部修験道

・修験道とは、霊山に籠り厳しい修行を行うことで、神秘的な力（霊験）を得て、その力で自他の救済を目指そうとする日本古来の山岳信仰と密教とが集合した神仏習合の宗教である。その実践者は修験者（修行して験力を顕す者）・山伏と呼ばれ、開祖は奈良期の大和葛城山を行場とした役小角（役行者）とされる。

・修験道は山中の神社や寺院に拠り所を求めた。吉野川市山川町の高越山の「高越寺」（「忌部神社」の別当）では、徳島最古の忌部修験道が創始され、大和の大峰山に対し西上山と呼んだ。その起源は少なくとも鎌倉期にまで遡る。一方、剣山の修験道は、山頂の「劔祠」（劔神社）を背景に成立したと見られる。「善福寺」（木屋平三ツ木）、「長福寺」（同谷口）、「万福寺」（東祖谷菅生）などは、平安期の安和2年（969年）に修験道で定められた忌部十八坊（『貞光町史』）であった。「龍光寺」大御堂には、寛元3年（1245年）の6体の阿弥陀如来像が安置され、木屋平川井の「極楽寺」の本尊阿弥陀如来像は、天喜5年（1057年）の記銘をもつこと等より推測すれば、古い歴史を有するのではなかろうか。



※かつての剣山修験者と先達

### 5. 龍光寺と富士之池本坊

・「龍光寺」（高野山真言宗）は、奈良期の和銅3年（710年）に行基が「長福寺」として開基、弘仁5年（814年）には、空海が当山に密法を創始したと伝わる。江戸期の享保2年（1717年）に「龍光寺」と改称して「劔山本宮劔神社」の別当寺、修験者の参詣寺としての役目を果たしてきた。標高約1200mの川上カケには、劔山修験道根本道場「劔山富士之池本坊」と称する通夜堂が置かれ、参詣者や修験者の便宜を図ってきた。由緒には、「大宝元年（701年）に役行者が開山。平安期の弘仁6年（814年）に、空海が四国総鎮守、総奥之院、鎮護国家の道場として神仏両部を象徴する「劔山大権現」（劔山本宮劔神社）を降臨・勧請した。元暦2年（1185年）、平国盛に供された安徳天皇が登頂し、その御宝剣を納め、劔山大権現と称し奉られた。」とある。江戸期には阿波藩主蜂須賀侯歴代の祈願所として隆盛を極め、登山者の講中を組織、熱心な登山者に先達の称号を与え修験道としての活動を続けてきた。

・劔山登山の開発は江戸期より始まった。その開発にあたったのは、劔山修験道の山伏や「龍光寺」と「円福寺」で、大和の大峰山をモデルとした。藤之池・弥山・小篠・大篠・柳の水などは大峰山の行場と対応関係にある。山頂の劔祠（劔神社）は「小篠権現」、弥山は神山町の「焼山寺」、柳の水は同阿野の「柳水庵」で、劔山修験道は神山町や美郷も含めた広範囲に及んでいた（『木屋平村史』）。その劔山登頂への山道は、木屋平側からが表参道、東祖谷からは裏参道と呼ばれた。



※木屋平谷口の「龍光寺」（長福寺）



※木屋平字川上の「劔山富士之池本坊」

### 6. 劔山「奥参り」と劔神社本宮例大祭

・劔山の先達に連れられた登山者（修験者）は、法螺貝と鈴の音に伴って行進し、まずは垢離取川での水行に挑んだ。次に六根清浄を合掌しながら進み富士之池で宿泊。翌朝2時頃より「奥参り」と称し、身軽な装備でお祓いを受け、細綱網を全員の帯に通し、前後の端を先達が持ち行動した。そして追分、一の森神社、二の森神社を参拝し、約3時間かけて登頂。御来光を拝み「劔神社」（宝蔵石神社）に参詣した。次に「古劔神社」（古劔権現）の周辺で修行を積み、最終は大劔神社（御塔岩）に参拝し、御神水を汲んで下山する慣習があった。その行場には、不動の岩屋、お鎖、鶴の舞、蟻の塔わたり、胎内くぐりなどがある。下山すれば、一字（つるぎ町）に降りて土釜・鳴滝などを観光、神山・石井町へ出る場合もあった。

・かつて「劔山本宮劔神社」の例大祭は富士之池で行い、修験者が2つの綱をもち、急傾斜面に立つ木々に綱を括り付けながら危険な神輿渡御を行っていた。しかし、富士之池の「劔山本宮」は、昭和51年（1976年）9月の風水害による崖崩れで壊滅してしまった。そこで「宝蔵石神社」に合社することになり、昭和52年（1977年）からは「宝蔵石神社」（元の劔祠）で例大祭を執り行うようになった。昭和58年（1983年）には、神輿をヘリコプターで空輸して山頂に運び、現在の神輿渡御が始まった。平成5年（1993年）には、「宝蔵石神社」の社殿が改築され、現在に至っている。

・御神体である素戔鳴命と安徳天皇は、5月3日～4日の劔山表参道山開き神事「奥かけ神幸祭」で、御分霊が富士之池の本社から「劔山本宮宝蔵石神社」に遷され、7月17日（最近では近くの日曜日）に例大祭が行われる。当日は、「劔山本宮宝蔵石神社」で御神体を神輿に遷す神事が行われ、11時に山頂を目指す神輿渡御が始まる。法螺貝が響き渡るなか、約30度の急斜面の難所を潜り抜け、クマザサが茂る平家の馬場を、猿田彦に扮した天狗が先導し、次に綱を引く者、神輿を担ぐ行者、神器をもつ者、平家の御旗をもつ者、崇敬者等が付き添い、心身を浄める。六根清浄という言葉を全身全霊で唱えながら勇壮に練り歩き、国土安穩が祈願される。神輿が頂上の三角点に着くと、神職が国家安穩の四方祓いを行う。還りの御旅所では「劔の舞」が奉納される。それは那賀町木頭の木頭忌部に伝わる舞で、平家再興への願いがこめられている。江戸期に阿波に入国した蜂須賀侯は、阿波忌部がもっていた古代・中世以来の権威や勢力を封じたとき、劔の舞には安徳天皇と平家の鎮魂、忌部復興への思いが重なり合っているという。神輿は12時頃に還り、御神体が神社に戻される。宝蔵石の前では、本宮特殊神事「御宝剣加持」が行われる。「劔山本宮」の御神体は、11月2日～3日の先達の閉山神事「奥かけ還幸祭」により、富士之池の本社に遷され1年が終わる。

・県内でかつて30組（講）を数えた講社は6組まで減少し、少子高齢化と相まって祭礼存続の危機に立たされた。そのため、「忌部文化研究所」が令和2年（2020年）より例大祭の一端を担うこととなった。



※約30度の急斜面を恐れずに神輿を担ぎ進む



※平家の馬場を練り歩く神輿



※御旅所で奉納される「劔の舞」



※御宝剣加持の神事



7. 【例大祭への誘い】

・往古、時代の転換期に忌部族は、フロンティア精神をもって日本各地を拓き、倭国を誕生させる一翼を担ったとされます。先行不透明な混迷の時代を潜り抜けるべく、神輿渡御の修行に御参加いただき、剣山の霊を感じとってください。また、例大祭に全身全霊で参加することで、苦難・苦境に打ち勝つ力を養い、そのエネルギーを日常生活に生かし、明日への光にしてください。さらには、世界や日本の平和・安寧を祈願し、自身の生まれ変わりを体得し、下山していただければ幸いです。



※御旅所で神輿が休まれる



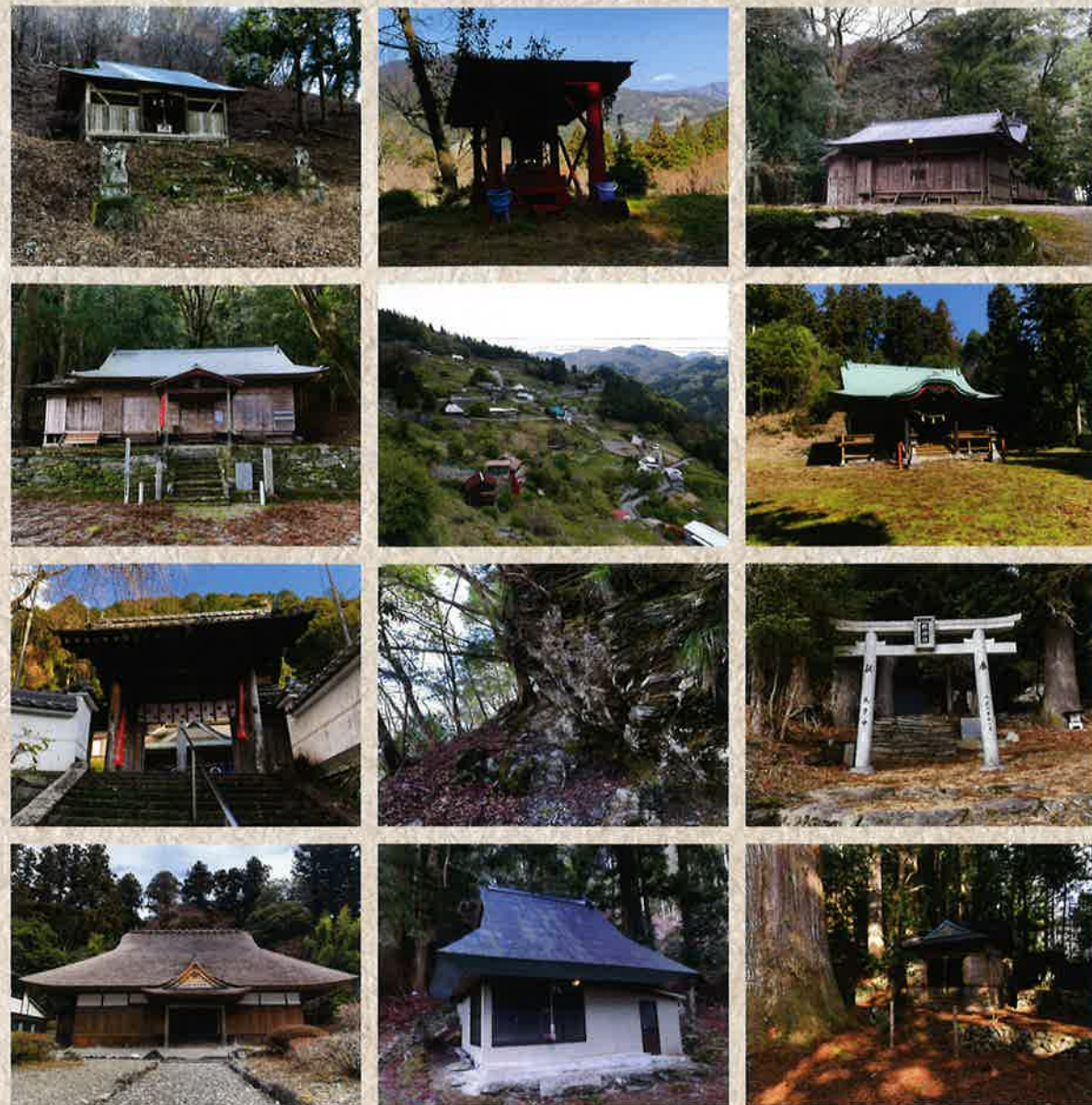
※古劔神社



※5月3日 富士之池の「劔神社」(旧本宮)の神事



※御旅所における神職の「劔の舞」



【写真解説】(上から順)

- ・美馬市木屋平東宮山の「春宮神社」(安徳帝) ・同大北の「劔大権現」(安徳帝の衣干場) ・同森遠の「八幡神社」(安徳帝の内裏)
- ・三好市東祖谷栗枝渡の「八幡神社」(安徳帝の火葬場跡) ・同集落 ・同西祖谷村重末の「八幡神社」(安徳帝の御骨納社)
- ・三好市井川町の「地福寺」(平家の赤旗) ・同東祖谷大枝の「平家の岩屋」(平国盛) ・同東祖谷大枝の「鉾神社」(国盛杉)
- ・三好市東祖谷の「阿佐家」 ・つるぎ町一字奥大野の「王太子神社」(建礼門院) ・那賀町木頭の「蟬谷神社」(平家落人と忌部神社)

《編集・著者》

忌部文化研究会 会長 林 博章 (はやし ひろあき)



(プロフィール)

昭和40年(1965)徳島市生。青山学院大学法学部卒。鳴門教育大学大学院修士課程修了(地理学)。古代史研究家。徳島大学非常勤講師。主著に「日本の建国と阿波忌部」(2007)、「倭国創生と阿波忌部」(2010)、「徳島劔山系の世界的農業文化遺産」(2015)、「天皇即位の大嘗祭—徳島阿波忌部の歴史考」(2018)など。2011年に鳴門海峡の世界遺産化、2012年に劔山系の伝統農業の世界農業遺産化を提言。







《制作》 2021年4月25日発行

日本の原点を見つめ未来を創る



一般社団法人 いんべ 忌部文化研究所

〒776-0001 徳島県吉野川市鴨島町牛島1572-1

TEL:0883-36-1147 / FAX:0883-36-1148

E-MAIL:info@awainbe.jp

Instagram:instagram.com/awanoinbe/



写真提供:劔山本宮劔神社 松村 志真秀 ※著作権保護のため、無断転載を禁止します。